

集団健診会場で個別のがん検診などを受ける場合

問 保健センター ☎85-6900

【肺がん・前立腺がん・肝炎ウイルス検診】 予約方法は集団健診と同じ

◎予約受付時間や実施日は2ページをご覧ください。



24時間
受付



予約特設サイトのリンクを掲載しています。
※6月15日(火)のみ9時から受付開始。



取手市 集団健診日程



取手市集団健診予約コールセンター

☎ **0120-356-725** (平日 9:00 ~ 17:00)
※電話がつながりにくい場合があります。

検診名	対象	自己負担金
肺がん検診 (胸部レントゲン検査)	40歳以上の方 (65歳以上の方は結核検診を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 40～64歳：400円 65歳以上：無料
前立腺がん検診	50歳以上の男性	<ul style="list-style-type: none"> 国保・後期…500円 その他…700円
肝炎ウイルス検診	<ul style="list-style-type: none"> 40歳の方 41歳以上で肝炎ウイルス検診を受けたことがない方 	<ul style="list-style-type: none"> 国保・後期…500円 その他…1,000円

【大腸がん検診】予約方法は三つ

①
申込フォーム
24時間受付



取手市 大腸がん

②
電話

保健センター

☎ **85-6900** (平日 8:30 ~ 17:15)
※電話がつながりにくい場合があります。

③

集団健診と
同じ方法

■①～③共通事項

受診日の2週間前までに予約をしてください。

◆対象と自己負担金

▶大腸がん検診の対象：40歳以上の方 ▶自己負担金：500円

■肺がん・前立腺がん・肝炎ウイルス・大腸がん検診共通事項

生活保護受給者は、「生活保護受給証明書」の提示で、自己負担金が無料。

タブレットを使った授業を開始

問 学務課 ☎内線 2022

国の推進する GIGA スクール構想の実現に向け、市内の小・中学校に1人1台のタブレット端末を整備し、本格的に ICT を活用した授業を開始しました。

▶ GIGA スクール構想の目的

児童・生徒に1人1台のタブレット端末と、各学校の高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、誰一人取り残すことのない個別最適化された、創造性を育む ICT 環境の実現を目指した取り組みです。

▶ ICT 情報通信技術を利用したコミュニケーションやサービスなどの総称



教室の大型テレビへ、授業の参考資料や、生徒が発表のためにタブレット端末で作成した内容を表示させています。

令和3年春 叙勲・褒章受章者紹介

問 秘書課 ☎内線 1112

	章	氏名(年齢)	主要経歴
春の叙勲	旭日小綬章	倉持光男さん(71)	元取手市議会議員
	旭日双光章	久保田清さん(73)	茨城県弓道連盟会長
春の褒章	藍綬褒章	成松文子さん(71)	人権擁護委員
危険業務従事者叙勲	瑞宝双光章	細川保信さん(72)	元警視庁警部
	瑞宝双光章	守屋典生さん(72)	元警視庁警部
	瑞宝単光章	児島光雄さん(72)	元警視庁警部
	瑞宝単光章	滝口新次さん(72)	元警視庁警部補
	瑞宝単光章	二子石幸文さん(67)	元東京消防庁消防司令長

※令和3年4月29日時点の年齢です。本人の希望で掲載していない方がいます。

市長 Mayor's column コラム

大きく変わってきた
授業風景



取手市長

藤井信吾

3月から、市内の全小・中学校で、児童・生徒への1人1台のタブレット端末の貸与・活用がスタートいたしました。先日、教育長とともに戸頭中学校を訪問して、タブレットを利用した授業の様子を視察してきました。

ICTを用いた教育が、児童・生徒に個別最適化された教育を効果的、効率的に実現できることは先行している自治体ですすでに証明済みでした。一方で、多額の費用を要するため、より有利な財政支援措置が取られるタイミングを見計らっていた自治体が多かったと思います。取手市もその一つです。

昨年3月の新型コロナウイルス感染症による公立小中学校の一斉休校という非常事態が発生した中、国が、「新型コロナウイルス感染症対応地方創生

臨時交付金」の使途として、GIGAスクールの導入に道を開き、相応の交付金を確保したことは、大英断であり、日本の初等中等教育はこれからダイナミックな変化を遂げていくはずで

さて、訪問した戸頭中学校では、一人一人が用いるタブレット端末と先生が解説に使う大型ディスプレイがうまく連動していることが分かりました。道徳の授業では、一人一人の意見が異なっていることをディスプレイの表示によって確認し合いながら、効果的に展開が図られていました。

操作時間が増えることで生徒が考える時間や意見を発表する時間にしわ寄せが来ては問題外、と私は心配をしていましたが杞憂だったようです。先生も生徒もICTを使って何をなすのか

を模索しています。導入に先駆け、先生方は、先行して導入した学校の動画などで、効果的なICTの活用例を研究されてこられたとのこと、そして今、教師同士の学び合いが盛んに行われているということでした。

私は、教育再生首長会議で、令和元年11月に文部科学省初等中等教育局初等中等教育企画課長から、2年1月には萩生田文部科学大臣から、教育改革についての講演を直接聞いております。その根幹にあるものは、集合型研修での知識教育での優等生から、自分の頭で考えて表現する力、さらに、自己決定できる人材の育成への転換です。私も、強い関心を持って見守ってまいります。